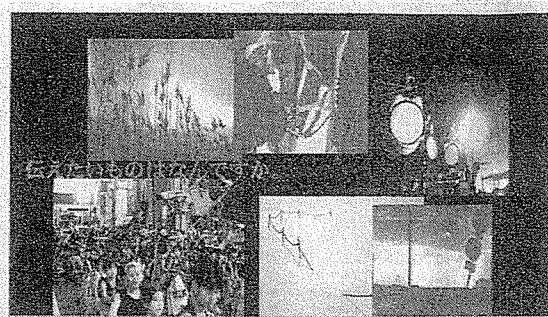


資料館の在り方探る

11—14日「市民フォーラム」



地域を伝えること

私たちにとって必要な資料館とは何か?

2008年2月11日(月)~2月14日(木)

総合研究大学院大学の学生が伊達市に来店して、「地域にとって必要な資料館とは何か?」をテーマにフォーラムを開催します。観光客のためだけではない市のための資料館について一時に考えてみませんか? フォーラムの運営は著者とごくわずかです。

会場: 伊達市噴火湾文化研究所
参加料: 1,000円(税込)
開催時間: 11時~17時
開催場所: 噴火湾文化研究所
主催: 伊達市噴火湾文化研究所
問い合わせ: 0142-21-5000番

市民フォーラム「地域を伝えること」のPRポスター

伊　達

地域に必要な資料館を考える市民フォーラム「地域を伝えること」(総合研究大学院大学主催)が十一日から四日間、伊達市館山町の市噴火湾文化研究所を主会場に開かれる。バスツアー、講演会などを予定しており広く参加を呼び掛けている。

同大で学ぶ元同研究所(伊達市出身)らの熱意で表現。観光客向けなど

十一日は同研究所の大島直行所長、十二日は市のワークショップを開催。十三日は同研究所の大島

館を考へる市民フォーラム

くじに向け、教授や学生ら二十人が四日間伊達市に滞在し、市民とともに可能性を探る試み。

十一日は同研究所の大島直行所長、十二日は市のワークショップを開催。十三日は同研究所の大島

研究大学院大学の魅力発見バスツアー。定員は二十人で開拓記念館、大雄寺、有珠善光寺などを巡るほか、参加者の発案で隠れた名所を探る趣向も用意。「研究者にぜひ地域の魅力を伝えてほしい」(同研究所)とアピール。

特に参加を募りしているのが十三日午前十時から市内の魅力発見バスツアー。定員は二十人で開拓記念館、大雄寺、有珠善光寺などを巡るほか、参加者の発案で隠れた名所を探る趣向も用意。「研究者にぜひ地域の魅力を伝えてほしい」(同研究所)とアピール。

さらに十四日は同研究所で午前九時から、地域に必要な資料館づくりに向け、参加者と学生らがアイデアを出し合つ予定。全行程参加無料で一日のみの来場も歓迎。

バスツアー「多くの参加を」 講演会…

同研究所では「資料館に興味がある人だけではなく、観光の人なども来てもらいたい」とP.R.問い合わせは噴火湾文化研究所(電話0142-21-5000番)。

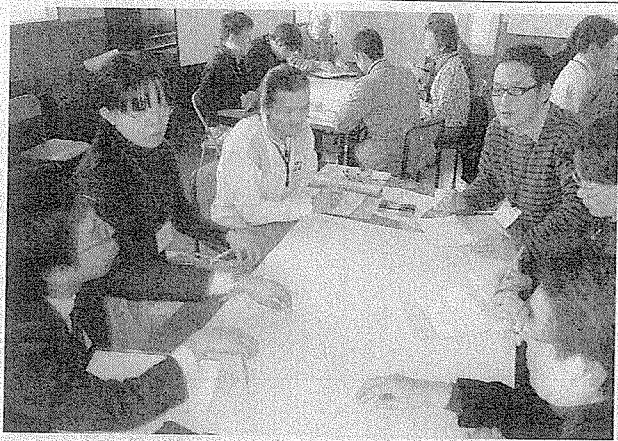
同研究所では「資料館に興味がある人だけではなく、観光の人なども来てもらいたい」とP.R.問い合わせは噴火湾文化研究所(電話0142-21-5000番)。

理想の資料官像探る

学生、市民 熱っぽく意見交換

フォーラム開幕

伊
達



学生と市民らが熱っぽく意見を出し合う
ワークショップ

地域に必要な資料館を考える市民フォーラム「地域を伝える」と(総合研究大学院大学主催)が十一日、伊達市噴火湾文化研究所を会場にスタートした。同研究所の大島直行所長らの講演をベースに、学生と市民らがワークショップで熱っぽく意見を出し合い、地域の魅力や理想的な資料館像を探っている。

四日間の日程で市民との話し合いなどを実施する。伊達さんによると、この会議は、伊達市が「地域を伝える」として、地域の資源を活用して、地域の魅力を発信するためのものだ。

伊達さんは、「研究結果を元するコンセプトで開催した。個人や団体の考え方を基に指摘。文化財、芸術文化と行政が一本化されいない現状には「縦割りではなく総合文化行政が必要」と説いた。

ワークショップでは参加者がマチの魅力を掘り下げ、歴史による文化の豊かさ、土地と人、生活の結び付きを語り、「記憶の中の博物館」についてはそれぞれ経験談などを出し合い、「そこで出合った問題を解決する」というが、伊達さんによると、伊達市出身の十六人が訪れ、初日は十八人が参加した。

同研究所の大島直行所長は、「文化行政をテーマに市住んでみたいままに市住んでみたいまちづくり課の中澤篤さん、移住コンシェルジュの吉居大輔さんが講演。初日同様ワークショップも盛況だった。企画者の伊達さんは「研究成果を元するコンセプトで開催した。個人や団体の考え方を基に指摘。文化財、芸術文化と行政が一本化されない現状には「縦割りではなく総合文化行政が必要」と説いた。

「歴史育てる博物館に」

市民、学生がまとめ

フォーラム 最終日

2008.2.15
民報

伊達

地域に必要な博物館や

資料館を考る市民フォーラム「地域に伝える」と（総合研究大学院大

学主催）が十四日、最終日を迎へ伊達市噴火湾文化研究所でまとめのワーキングショップが行われた。

四日間の日程で市民とともに学生たちが地域の博物館づくりを考える同

フォーラム。十一、十二日に文化財行政、移住を

テーマにして講演とワーキングショップ、十三日は有

珠普光寺、開拓記念館、大雄寺など市内八カ所を

巡るバスツアーを通じ、地域の魅力や文化についての意見交換も熱を帯び最終日を迎えた。

今回の企画運営に当たった同大の伊達元成さん（元同研究所学芸員補）は「市民のみなさんと学生がともに考る作業が

てきた。今回の結論は一つの通過点で、市民のための博物館づくりに向

かれたぶれない方向性の基礎として生かしてもらいたい」と期待を込めた。



市民のためにある博物館、資料館づくりへ意見を出し合う学生と参加者

個人や団体の考え方の指針を定めるミッショ

ンステートメントを基礎に

した資料館・博物館づく

りに向け、学生と参加し

た十人余りの市民がグル

ープごとに意見を出し合

つた。これまでの議論を

まとめながら、「ヒトが

命の博物館」「歴史を育

てる博物館」など、各グ

ループで結論をまとめ

た。